

## 基本的方向3 社会全体で支えるための環境づくり

### 施策の主な対象 学童期～青年期の子ども・若者

少子高齢化、情報化、グローバル化の進展など、急速に社会環境が変化する中で、地域住民同士のつながりの希薄化が指摘されています。このような中であっても、家庭、学校、地域が連携・協力し、子ども・若者の健やかな成長と自立を支援するための活動が実践されてきました。このような取組みをさらに強化するとともに、放課後の居場所づくりや様々な活動の場づくり、有害環境浄化対策やインターネット利用をめぐる問題に対する取組みの強化など、家庭、学校、地域が連携し、社会全体で支えるための環境づくりを推進します。

### 施策の方向5 家庭、学校、地域の連携・協働の推進

#### ① 社会全体で子ども・若者を支援する体制づくり

- “いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動など社会全体で子どもの健やかな成長を支援する取組みの展開
- 家庭、学校、地域が連携・協働し、子ども・若者の様々な体験・学習活動を社会全体で支援する仕組みの構築
- 学生や若者の力の活用や、地域、関係機関・団体等との連携による居場所や様々な活動の場づくりの推進

#### ② 子ども・若者が犯罪・事故の被害に遭いにくいまちづくり

- 学校、家庭、地域が連携した地域ぐるみの学校安全体制の整備
- 家庭、学校、地域が連携・協働した交通安全、防犯、消費生活等の教育・啓発の推進
- 通学路の安全対策、県民の防犯意識の向上など安全安心なまちづくりの推進

### 施策の方向6 社会環境の健全化の推進

#### ① 有害環境対策の推進

- 青少年健全育成条例に基づく有害図書類規制など社会環境健全化の推進
- 子どもや若者が危険ドラッグに関わらないよう薬物乱用防止の啓発の推進
- サイバーパトロール等による有害情報に対する適切な対応に向けた取組みの推進

#### ② 安全・安心なインターネット利用の推進

- 子ども・若者、保護者に対するインターネットの安全・安心な利用に関する啓発の推進
- 関係機関・業界団体等における自主規制の取組みや啓発活動の推進
- 学校における情報活用能力の育成と情報モラルも含めた情報教育の充実
- 環境の保全・創造・活用への理解を深めるための家庭、学校、地域等幅広い場における環境教育の推進

### 危険ドラッグについて

危険ドラッグは、麻薬や覚せい剤などの化学構造を一部変えただけの物質を含んでおり、街頭店舗やインターネットなどで「ハーブ」「お香」などと称し、あたかも身体への影響がなく、安全であるかのように販売されています。

中には麻薬や覚せい剤などの薬物よりも危険な物質が含まれていることもあり、人体への使用で、意識障害、嘔吐、頭痛、けいれんなどの症状を引き起こすおそれがあります。

また、たった一度の使用で死に至ることもあるなど、大変危険で違法な薬物です。

近年、危険ドラッグ使用者の自動車運転等による重大な事故が多発しており、法令による規制と啓発の両面から社会全体で乱用防止に取り組む必要があります。



## Column 青少年の健全育成に向けた県民運動の取組み

県では、青少年の健全育成に向け、従来から「大人が変われば子どもも変わる」県民運動を展開し、あいさつ・見守り運動や、モラル・マナーの向上運動、子どもを事故や犯罪等から守る運動に取り組んできました。

加えて、平成25年度からは、「いじめ・非行をなくそう」やまがた県民運動を展開し、地域、学校、家庭が連携して、子どもをいじめから守るための取組みを開始しています。

青少年の育成に携わる地域の大人が中心になって、いじめ防止標語の募集や学校・駅前等における啓発活動、いじめ防止講演会等の開催など、工夫を凝らした取組みを行っています。また、平成26年11月9日に南陽市民会館で行われた「いじめをなくそう高校生サミット」では、置賜地区代表の高校生が、県内各地区の青少年育成関係者約450人を前に、自校の取組みを発表し、大人へのメッセージを投げかけました。

「地域の子どもは地域で育てる」という視点で、学校や家庭、そして児童・生徒自身とのつながりや相互理解を深めながら、地域の大人が子どもの健やかな成長を支えていくことの重要性は、今後益々高まっていくものと思われます。



学校を訪れての、啓発活動・あいさつ運動の様子



高校生サミットの様子